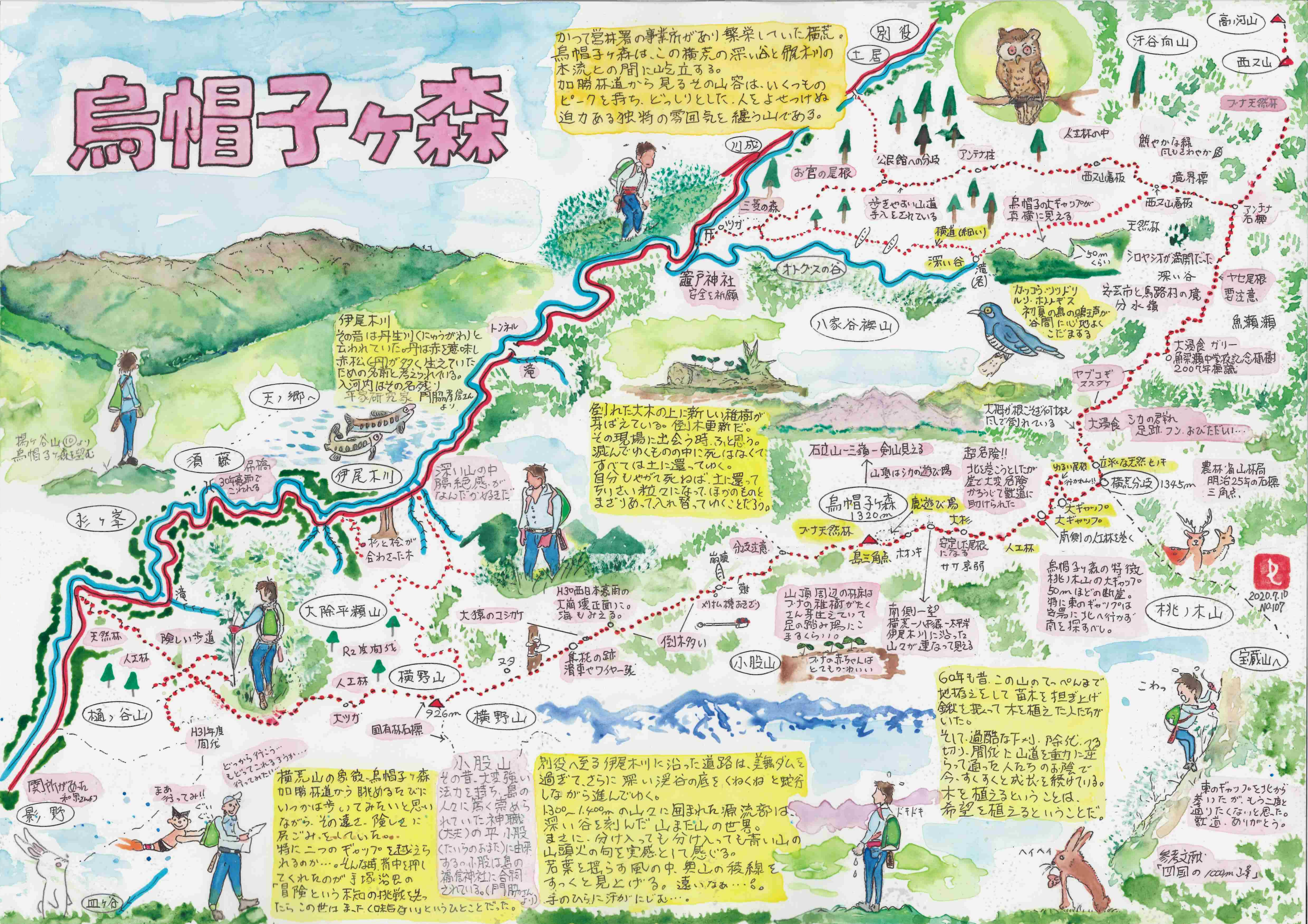
烏帽子ヶ森


別役
土居
川成
お宮の尾根
三宝の森
ツガ
籠戸神社
安全を祈願
オトクズの谷
公民館への分岐
アンテナ柱
人工林の中
汗谷向山
高河山
西又山
ブナ天然林
熊やかな緑
風もさわやか
西又山看板
境界標
西又山看板
アンテナ石標
歩きやすい山道
手入をされている
横道（細い）
烏帽子の大ギャップが
真横に見える
天然林
50m
くらい
深い谷
滝
（名）
シロヤシオが満開だった
深い谷
安芸市と馬路村の境
分水嶺
ヤセ尾根
要注意
魚梁瀬
カッコウ・ツツドリ
ルリ・ホトトギス
初夏の鳥の鳴き声が
谷間に心地よく
こだまする
八家谷裸山
大渇食 ガリー
魚梁瀬中学校記念植樹
2007年標識
ヤブコギ
ススダケ
大栂が根こそぎ何本も
風で倒れている
大渇食 シカの群れ
足跡、フン、おびただしい…
石立山ー三嶺ー剣山見える
山頂はシカの遊び場
超危険!!
北を巻こうとしたが
崖で大変危険
かろうじて獣道に
助けられた
ゆるい尾根
行かれん!!
立派な天然ヒノキ
横荒分岐
1345m
農林省山林局
明治25年の石標
三角点
烏帽子ヶ森
1320m
鹿遊び場
大杉
大ギャップ
大ギャップ
南側の人工林を巻く
ブナ天然林
島三角点
ホオノキ
安定した尾根
になる
人工林
ササ衰弱
分岐注意
崩壊
鎖
刈払機おきざり
倒木多い
山頂周辺の林床は
ブナの稚樹がたく
さん芽生えていて
足の踏み場にこ
まるくらい!!
ブナの赤ちゃんは
とてもかわいい
南側一望
横荒ー八形森ー太平洋
伊尾木川に沿った
山々が連なって見える
烏帽子ヶ森の特徴
桃ノ木山の大ギャップ
50mほどの断崖。
特に東のギャップは
安易に北へ行かず
南を探すべし。
桃ノ木山
宝蔵山へ
こわっ
東のギャップを北から
巻いたが、もう二度と
通りたくないと思った。
獣道、ありがとう。
小股山
H30西日本豪雨の
大崩壊正面に。
海もみえる。
大猿のコシカケ
ヌタ
集材の跡
滑車やワイヤー残
トンネル
滝
深い山の中
隔絶感が
なんだか好きだ
杉と桧が
合わさった木
天ノ郷へ
須藤
吊橋
30年豪雨で
こわれる
伊尾木川
揚ヶ谷山⑩より
烏帽子ヶ森を望む
杉ヶ峯
滝
大除平瀬山
天然林
人工林
険しい歩道
R2度間伐
人工林
横野山
大ツガ
926m
横野山
国有林石標
樋ノ谷山
H31年度
間伐
関所があった
和泉さんより
影野
まあ
行ってみ!!
ぐい
ぐい
どっから行こう…
もどってこれるろうか…
行ってみたい…
皿ヶ谷
ドキドキ
ヘイヘイ

かつて営林署の事業所があり繁栄していた横荒。
烏帽子ヶ森は、この横荒の深い谷と伊尾木川の本流との間に屹立する。
加勝林道から見るその山容は、いくつものピークを持ち、どっしりとした、人をよせつけぬ迫力ある独特の雰囲気を纏う山である。

伊尾木川
その昔は丹生川（にゅうがわ）と云われていた。丹は赤を意味し赤松（丹）が多く生えていたための名前と考えられている。入河内はその名残り
平家研究家 門脇孝信さんより

倒れた大木の上に新しい稚樹が芽ばえている。倒木更新だ。
その現場に出会う時、ふと思う。
滅んでゆくものの中に死はなくてすべては土に還ってゆく。
自分もやがて死ねば、土に還って小さい粒々になって、ほかのものとまざりあって入れ替ってゆくことだろう。

60年も昔、この山のてっぺんまで地拵えをして 苗木を担ぎ上げ鍬を振って 木を植えた人たちがいた。
そして、過酷な下刈り、除伐、つる切り、間伐と山道を重力に逆らって通った人たちのお陰で今、すくすくと成長を続けている。
木を植えるということは、希望を植えるということだ。

横荒山の象徴、烏帽子ヶ森
加勝林道から眺めるたびにいつかは歩いてみたいと思いながら、その遠さ、険しさに尻ごみをしていた。
特に二つのギャップを越えられるのか…。そんな時、背中を押してくれたのが手塚治虫の「冒険という未知の挑戦を失ったらこの世はまったく味気ない」というひとことだった。

小股山
その昔、大変強い法力を持ち、島の人々に篤く崇められていた神職（太夫）の平小股（たいらのおまた）に由来する。小股は島の福信神社に合祀されている。（門脇さんより）

別役へ至る伊尾木川に沿った道路は、美鏡ダムを過ぎて、さらに深い渓谷の底をくねくねと蛇行しながら進んでゆく。
1300〜1,400mの山々に囲まれた源流部は深い谷を刻んだ山また山の世界。
まさに、分け入っても分け入っても青い山の山頭火の句を実感として感じる。
若葉を揺らす風の中、奥山の稜線をすっくと見上げる。遠いなあ…。
手のひらに汗がにじむ…。

参考文献
「四国の1000m峰」

2020.7.10
NO.107